時事新報は日本國中唯一の毎日刊行新聞紙なり

時事新報

第二千三百八十七號　火曜日
明治廿二年八月二十日
舊曆己丑七月廿四日（戊辰）
日出午前四時四分　日入午後六時二十三分
月出午後一時四十九分　月入午前十一時零三分
（西曆一千八百八十九年）

時事新報

西尊東卑（昨日の續）

高橋義雄

東西の文明は各々その起原を異にして一長一短、尊卑一方に偏す可らず蓋し西洋文明の極意は人生有形の快適（Comfort）を長養するに在りて衣食住の品質形容單に其趣向に從ふは申すに及はず彼の凡百學理的の發明工風も亦專ら此快適の增長を期するものゝ如し即ち溫飽快適を主として雅致風流を客とするが故に西洋上流社會の中には既に其主とする所を滿足し盡して漸く雅致風流の缺くに及ぶものなきに非ざれども先づものは有形實質の快適よして嗜好卑俗武骨殺風景の痕跡を脫すると能はざるは西洋文明の本色にして我々東洋人の每度冷眼視する所なり今西洋國の實際に就て其日常衣食住の模樣を見るに家は石造煉瓦造にして云はゞ一家五口の城郭、風雨火難の心配なくして堅固は誠よ堅固なれども雅致を解せざるの悲しさには形に美妙の觀なくして四角の箱を立てたるが如し庭は概ね長方形よして平地に芝生を敷きたるは運動散步に便利なれども泉石布置の妙なくして三角四角の形より成るは丸で幾何學の稽古場の如し盆栽の樹木に枝振りを撰まず卓上の草花に挿花の術なく食膳に臼大の肉塊を剩して尺骨を杯盤の間に橫ふる等要するに肉體の快適を主として雅致風流を形容の外に求むるものありとも思はれず筋骨逞ましくして糧用ならず二本の箸で飯が食へず指の先きにて小拈が拈れず舞蹈に足のみを動かすは獸類跳躍の進化したるものにやあらん單に活潑なるのみにして絕えて嫺雅優美の態なく體力氣魄の強大なるが爲めにや家屋器物を始めとして其規模誠よ廣大なれども金碧燦爛唯ピカピカたるを悅びて小兒が玩具を求むるに赤く華やかなるを擇むと一般、嗜好に滋味を含まずして卑俗淺薄たるを免れず今試よ此意を說くに我が粹人社會に於て衣服の裏を絹にして其表を木綿よし若くは綿織の光澤を忌んで結城紬を珍重するの趣、或は茶人社會にて破碗缺皿殊よ形の片輪なるものを愛翫する等の意を以てせんか如何で其粹精神味を解するみとを得べき唯茫然たる可きのみ畢竟快適を形容に求むるものにしてストーブの前で葡萄酒を飮むの樂は解し得れども林間閑に坐し青苔などの趣は蓋し彼等の評價し得べき限りに非ずして斯くては風邪に罹さるゝならんなど忽ち實體快適の疑問よ移るみとならん今の西洋文明は此等有形の快適を追ふものが其向きの趣向を以て長養發達したる者なれば俗氣紛々共に垢拔けたる文采風流を解するに足らずを知る可きなり

翻みて我が日本國を見れば山水秀麗の氣の鬱蟠磅礴する所、美術工藝の士に向て一種言ふ可らざるの妙想を賦與し繪畫彫刻陶漆諸器文采燦然を究極して伊太利佛蘭西の名工よても企て及ばざる所あるに非ず蓋し我が日本人は身體纖弱にして獸慾少なく神經鋭敏にして細なしく纖用なる素性あるものゝ如く而して其身體の纖弱よして其神經の銳敏なるは所謂風流心を濃厚ならしむるの一原因にして病中の作に名詩多きも亦其一例として見る可きなり即ち我が美術工藝の士が指先きの器用にして想像力の高雅なるは祖先心體の遺傳よ於て然らしむる所、將た風土天然の光景自然よ國民の雅致を進めて草刈る賤の女に至るまでも尙ほ彼の天然風景の美を操しむの習癖を爲したる等の致す所にして武骨傲強獸慾極めて盛んよして有形實質の快適を追ふ彼れ西洋人輩の遠く及ばざる所なり抑も我が日本の諸美術は往古支那より傳來して換骨脫體出藍の譽を得たるのみならず今日歐洲の諸美術館よ入りて日支兩國の美術品を比較すれば俗雅死活人智の變斯くまで相違あるものかと自から驚嘆する程の次第よして東洋美術の神粹は實よ日本に鍾まりたりとの事實を發見するよ足るべし即ち歐洲國人の獨り我が美術品を珍重する所以にして其大體の自慢談は今暫く之を擱き日常瑣末、人の注意せざる部分に渉りても尙その想像の高尙よして機智の敏妙なるを見る可きもの少なからず例へば日本の畫題には意外に寓意を含むもの多く鯉の瀧上りに士人出世の意を表して雪折れ竹よ耐忍を示し四君子に節操を表して鶴龜よ長壽、鴻鵠に伉儷の趣を現はす等その趣味意想の高妙なる意深くして外國人などの酌み盡す可き限りに非ず又彼の俗諺俚話の類、廣く世間に傳はるものは其民情の意想を示すものよして古來我が俗間よ流傳する猿蟹合戰、花咲老爺、若くは舌切雀等の如き以て其の想像の淸雅なるを見るべく之を彼のシンドレラ（西洋の俗間に行はるゝ假作談よして我が紅皿缺皿の談に類して稍拙なるものあり）などに比すれば雅俗天淵の差あるを知る可きなり又彼の旗號紋所の形を見よ凡そ世界の國旗中よ我が旭日旗の如く優美高尙なるものありや或る西洋人は日本に先ちて之を其國旗號と爲さゞりしを憾みて日本國よて其旗號を賣り渡すの意あらば其意匠を買ひ受けたしと云々と語りたる者さへありと云へり或は日本名家の諸紋、菊桐、葵、鷹の羽等其形の美事なるものを以て西洋のコート、オヴ、アーム（多くは龜甲形よして斧若くは旗等を交叉したる紋所なり）に比較せば是れ亦一見して其優劣を判斷するを得べし此等は瑣末の事柄なれども日本と西洋との美術思想よ如何なる巧拙ある可きや亦以て其趣を見るべく美術上の或る點に於ては日本は天下の關鍵として毫も愧づる所なかる可きに然るに何物の無識頑者か敢て西尊東卑を唱へて自から其所長を疎外し武骨殺風景なる西洋品を盲拜して之れよ顚び又之れよ擬するに至る言語道斷沙汰の限りと申すの外なきなり畢竟眼界の狹くして外を知らざるの致す所にして昔年或る田舍藩の儒者が終年尊攘論は江戸儒に及ばずと思ひたる折柄たまく江戸よ罷越して扨て其儒者等よ接するに及んで始めて已れの學力よ驚き江戸儒恐るゝよ足らざるを知りたりとの奇談あれども日本の美術工藝も彼の田舍儒の學力と一般、歐洲中原よ押し出して眼界廣く彼此相比較するともあらば自から其靈妙高尙なるに驚きて美術上西洋崇拜の迷夢を破るの時ある可きか天の我國に賦與するもの薄からず我々日本人は自から輕んず可らざるものあり

（以下次號）

雜報

○關谷教授　は去る十一日午後長崎より熊本に着し其翌十二日午前八時芦田熊本縣屬を隨へ西山地方島越へ向け出發せしが同氏は地震及び火山脈等の調査に要する諸器械を携帶し又長岡理學士も學理研究の爲め同教授に隨行せりといふ

○松山の近報　松山同鄕會　當地靑年の文弱に流るゝ弊を矯正し質實活潑の精神を養ふの趣旨を以て設立したる松山同鄕會は今や暑中休暇よて各地に遊學せる學生の歸鄕中を幸ひ十日を以て大會を開きしに會するもの二百名內外にて十名程の演說もあり頗る盛んなりき又た十一日は松山衛戍兵營內を借り大運動會を開けり○品川少將　同少將は一時危篤に迫り居りしが昨今漸ひく快方に向ひたれば今日の樣子にて續きたらんには全快すべしと云へり○黨派の爭ひ愈々甚し　當地方よは世人も知るが如く改進黨と大同團結派あるとなるが昨今は黨派の爭ひ愈々甚しく新聞紙上杯にても弗々攻擊を始めたるが是れは表面の事よして其裏面を伺へば殆んど龍虎相對するが如き有樣にて互に反對黨の弱點を發き吹聽する事をのみ勤め居れり今一步を進めたらんよは腕力の爭ひをも生ずるとならんと思はる○地鳴り　既よ電報せしが如く當地方は一昨夜七八回地鳴せり併し至て微かにして殆と遠雷かと疑はるゝ許りなり灰色の如き天色よて電光甚しく春の如く山々よ霞を張り一體異樣の空合なれは彼の九州地方の如き一大變事を生ずるともあらんかとて人々大よ畏怖する樣子あり

（八月十一日發）

○久米共益會　愛媛縣下久米郡地方の改進派連は今度久米驛に題號の如き一の俱樂部を設け同好の士とは交誼を親密にし地方の利害各自の職業に就ては相研磨して公私の利益を謀るを目的とし且つ愛媛俱樂部及び其他主旨を同ふする團體とは氣脈を通ずる仕組なりと

米國の人情風俗

米國は對岸の隣國なり太平洋の面廣しと雖ども汽笛一聲橫濱を發して十數日を經れば容易く彼の地に達すべし其土地は新開の富國にして財源汲めども盡きず人口は既に六千萬以上に達し尙は年々諸方より移住する數は十萬を以て數ふべし國運の駸々たるみと斯くの如く地形の便利なるみと斯くの如し故に我國の製產物を輸出する第一等の得意先きは米國にして用を帶びて歐洲よ行くものも一たびは米國を經ざるもの稀なり左れば米國の人情風俗を知るは最も必要の事にして假令へ彼の地に渡るの念なきものも渡來の米人と交際せんと欲するもの若くは輸出品を製造するものは必ず能く彼の國の國風を知らざるべからず況んや用と不用を問はず彼の地を巡遊せんと欲するものに於てをや其國風を知らざれば旅者も商人の如く如何計り注意するも不都合なきを期し難かるべし此等は彼の地に遊びたるものゝ傳聞錄第一に人に告ぐる話柄なり況んや輸出商品に從事せんと欲するものをや其國風を知らざれば向くべき品物も不向きとなり利益を拾ふべくして徒らに損するみとを免れざるべし兵法よも敵を知らざるものは敗ると云へり米

人を相手に…
國風人情な…
レル氏が米…
せし所なれ…
ブル、エン…
英人の氣質…
してより名…
俗を記述し…
情を知るに…
よ掲載して…
第一
米人の氣質に…
や足らずの傷…
之れを淺測す…
れが仕遂げた…
立派に製へ上…
を御覽、立派で…
賞めらるゝを…
左れば外國人…
は如何との問…
ず下の三問を…
始めて米國…
着して幾…
此國を愛…
甚だしきは足…
見を尋ねらる…
同じ）が英國…
新約へ向け…
あり開き見れ…
者より送り越…
予の意見如何…
ければ航海中…
よ着し上陸し…
りたるに御者…
亞米利加は如…
幸浦よて受取…
英人及び佛人…
に注意せざれ…
以外に立つを…
もそは其外人…
層之よりも甚…
と信ずるが故…
如き思想は毛…

奧州旅（…
弘前…
○○○教育一斑
あり盤は藩政…
教師を雇入れ…
藝術多くは…
弘前子弟の有…
んど獨り近…
徒の異…
にあり…
漸いよ…
るよ…
のみなら…
に教授する…